

令和3年度 かほく市立大海小学校 学校評価 (後期結果) R4.2.8

重点項目	具体的取組	担当	現状	指標	評価の観点	達成度判断基準 (A+Bの割合で判定)	判定基準	備考		児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度判断	改善策	学校関係者評価者による意見
								実施時期・対	実施時期・対							
確かな学力の育成と小中連携の充実	① ★国語科・算数科の基礎学力の向上を図る		評価テストにおいては良好であるが、個人差があり、支援が必要な児童がどの学年にもいる	成果	漢字テストで8割以上できる 計算テストで8割以上できる	漢字・計算の評価プリントで80%以上できる児童が80%以上	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	毎学期末(児童)	漢字テスト 85% 計算テスト 81%					B	・タブレット端末等も活用し、ドリル学習に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ・理解が不十分な部分を把握し、解き方や答えの書き方などをきちんと指導した上で、根気強く問題に取り組ませる。	間違えた問題はしっかり直させ、冬休みの課題としても取り組ませた。3学期当初に再度テストし、漢字97%、計算92%になった。算数に苦手意識をもつ児童がどの学年にも見られるので、担任以外も算数やPTに入り、個別支援を行っている。
	② ★家庭学習の習慣づけを図る(10分×学年)		家庭学習への意識づけはしてきたが、習慣化・主体的という面では十分とは言えない	成果	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる	10分×学年の時間をクリアした割合が90%以上	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	4月から毎月がんばりカード	95%					B	・計算の仕方を適宜振り返り、家庭学習や朝学習などで反復練習を行っていく。	
	③ ★アクティブラーニングを取り入れる等、一人一人が分かる授業となるよう工夫と改善に努める	学習指導部		自分の考えを持つことができなかつたり、主体的に学び合うことができなかったりする児童がいる。教職員主導で、児童の主体的な学びになっていないことがあるので、分かる授業づくりに向け、研究の重点をもとに共通理解して取り組む	努力	児童の弱点克服のため、研究の重点目標をもとに、授業改善を図っている	教職員のアンケートで90%以上	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月(教職員)				100%	A	・家庭学習調査で達成率の低い児童が固定化している。個別の声かけに加え、保護者にも協力を依頼する。	
	④ 小中連携の推進を図る		児童・生徒の交流事業、教職員の研修の推進を図る必要がある	成果	校区内小中連携を意識した取組を学期に1回以上行う	交流事業や教職員の研修の回数が80%以上	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	毎学期(教職員)				小中連携研修 学校訪問 100%		A	・学年の枠を越えて授業の相互参観を行う。その際、授業改善のための視点を設け、参観者が今後の授業に生かせるようにする。	
	⑤ ★英語活動の充実を図る		英語アシスタントと連携し英語に親しむ活動をしているが、さらにその充実を図る必要がある	努力	英語活動に興味関心をもち、楽しい授業になるように創意・工夫をしている	児童アンケートで80%以上 教職員アンケートは90%以上	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月(児童・保護者)	96% 92%	96% 89%			100%	A	・語彙を増やし、読解力を向上させるためにも、並行読書や本の紹介などを行い、読書の質を高めていく。	
	⑥ 読書に親しむ習慣化を図る		毎月23日前後に親子読書の日を設定しているが、期待値ほど読んでいない	成果	全校朝読書を設定し、学年に応じた図書に親しませ、読書目標(各学年の設定)の達成を50%以上にする	年間 次の数値以上 底は、200冊 3年は、5000ページ 4年は、7000ページ 5年は、9000ページ 6年は、10000ページ	A:80%以上 B:50%以上80%未満 C:30%以上50%未満 D:30%未満	7月、11月(児童)	82%					A	・学力向上に向けた取組が共通実践となるように、各学期末にロードマップについて振り返る時間を設定する。授業チェックシートなどを活用し、OJT研修の充実を図る。	
学校組織力の強化	⑦ 学力向上に向けたロードマップをもとに組織的に取り組む	教務部・学校コーディネーター	計画をもとに各リーダーが中心となって改善しながら推進していく	努力	一人一人が参画意識をもって学力向上に向けて自分の役割を遂行している	教職員アンケートの実施で90%	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月(教職員)					89%	B	・学力向上に向けた取組が共通実践となるように、各学期末にロードマップについて振り返る時間を設定する。授業チェックシートなどを活用し、OJT研修の充実を図る。	
	⑧ 地域素材をいかした学習に積極的に取り組む		地域の人材や素材を取り入れた授業が定着し、児童の関心意欲も高まってきたが、連絡調整等、教師の負担は大きい。学校コーディネーターを活用し、地域の人材や素材を生かした学習を円滑に行っていきたい	努力	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材をいかした授業を行っている	教職員アンケートの実施で90%	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月(教職員)					100%	A	・コロナ感染対応に十分配慮しながら、教育課程を踏まえた地域の人材や素材の活用場面を考えていく。	
	⑨ 家庭・地域との協働による学校運営協議会の充実を図る		学校運営協議会の運営をより一層充実させる必要がある	満足	家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している	教職員アンケートで80% 委員アンケートの実施で80%以上	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月(児童・委員)			100%	90%	A	・業務内容・役割分担の見直し、教材の共有化などを行い、業務の軽減化を図っていく。		
	⑩ ★業務内容の改善に努め、時間外勤務の削減に努める		時間外勤務が恒常化しており、帰宅時間が遅くなっている。また、休日出勤も多い。ワークライフバランスが悪い。	努力	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る	勤務時間調査	A: -10%以上達成 B: -9%未満昨年度より削減 C: 昨年同様 D: 昨年比+	7月、11月(教職員)					-22%	A		
いじめ・不登校や問題行動の防止と特別支援教育・心の教育の充実	⑪ ★あいさつを通して他者との関わりを持たせる		学校でのあいさつは元気に見えるようになっているが、地域でのあいさつが定着していない	成果	家庭や地域であいさつする習慣が身につけている	三者のアンケートの評価の割合が80%以上	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月(保護者・児童・地域)	99%	97%	88%		B	・校内のあいさつだけでなく、地域の方へのあいさつを充実させるために、企画運営委員会が中心となり、どのようにあいさつの取組をすればよいか、児童に考えさせて実践する。	なかよしグループによる「朝のあいさつ運動」や、企画運営委員会による「大海つ子のあいさつパーワーでドラゴンを退治しよう」など、児童が主体的に取り組むようになってきた。	
	⑫ ★いじめ・不登校など問題行動の未然防止に努める	生徒指導部	いじめや不登校の事例は少ないが、小さなトラブルや登校渋りが見られ、早期対応している。今年度からはスクールカウンセラーを活用していく	努力	問題行動が起きる前に、積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭との連携を図り、問題解決できるようにしている	教職員アンケートの結果が90%以上	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月(教職員)					100%	A		・いじめアンケートだけでなく、日頃の些細なトラブルに対しても、組織的に情報共有・対応・指導し、保護者に伝えていく(お便りやHPの活用)。また、記録をしっかり残していく。
	⑬ ★特別支援教育の推進に努める		周りの子とうまくコミュニケーションを取ることが難しい児童が友達とトラブルを起こすことがある	努力	特別支援コーディネーター及び校内支援体制を活用しながら、一人一人が自己有用感を感じ、認め合える学級づくりに努めている	教職員アンケートの結果が90%	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月(教職員)					100%	A		・毎月「児童理解の会」を行い、児童の現状や今後の対応策について共通理解・共通対応を図っていく。
	⑭ 豊かな心を育む道徳教育の充実を図る		道徳的判断力・実践力の弱い児童がいる	努力	GTや地域の素材を生かした道徳教育を行うとともに、道徳的な判断力・実践力を高めるようにする	S:「道徳で内容項目について考えている」が80%以上 T:道徳の授業を年1回以上公開し、道徳便りや学年便りで保護者に取組を報告するが100% また、年間1回以上GTを活用した授業を行う	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月(児童・教職員)					98%	A		・児童間のよりよい人間関係づくりのために、各クラスで積極的にソーシャルスキルトレーニングを行っていく。
生活習慣の定着と運動能力の向上	⑮ ★異学年活動を推進し、活力ある学校づくりをする	特別活動部	異学年活動は進んでいるが、高学年としてのリーダー性が弱く、異学年のグループをまとめる力が弱い	成果	学級活動や学校行事などに楽しんで企画したり参加したりしている	S:「毎日学校に行くのが楽しい」が90%以上 P:「子どもは学校に行くのが楽しい」が90%以上	A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月(児童・保護者)	95%				95%	B	・高学年が中心となって自主的な活動を考え、児童主体で発案、運営できる機会をつくる。また、よき見つけなどお互いを認め合う活動を行うなど、学級活動の内容を工夫する。	特に「早寝」の大切さをはっぴい貯金の取組や健康委員会のイベントなどで、継続的に指導している。ゲームや動画視聴など就寝時刻が遅くなる原因について把握し、生徒指導とも連携しながら指導している。
	⑯ ★家庭と連携し、生活習慣の定着を図る	保健安全部	朝ご飯の意識は高まってきたが、その他の健康管理意識が未だ向上していない	成果	食に関する指導計画をもとに、養護教諭等と連携して食育の授業や活動を推進している	児童・保護者アンケート「朝食を毎日食べている」が80%以上	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月(児童・保護者)	98%	99%			A	・良い生活習慣の定着が弱い児童には、本人への声かけだけでなく、保護者への協力を積極的に求めていく。		
	⑰ ★児童の体力・運動能力の向上を目指す	特別活動部	体力テストの結果は良好ではあるが、一部運動能力が平均と比べて劣っている種目がある	努力	各学年で決められたスポチャレの内容や目標値に向かって取り組んでいる	学期毎にスポチャレ記録回数の更新数を各学年2回以上にする	A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	5.7.9.11.1月 第2週(児童・保護者)	朝食 98% 早寝 86%	朝食 99% 早寝 84%			5回更新	D	・更新回数が少なく、学年によるばらつきもある。どの学年でも積極的に行えるように、感染予防を踏まえた実施の仕方を提案したり、呼びかけを行ったりしていく。	

★市の重点項目 S:児童 P:保護者 T:教職員